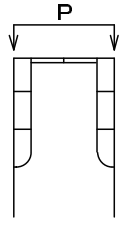
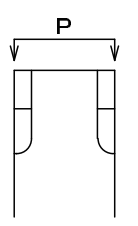
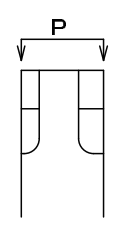
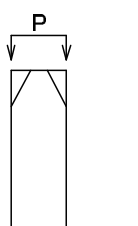
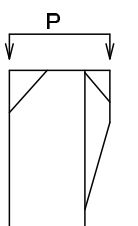


枠組足場の使用基準

1. 建枠の許容支持力

建枠の種類	標準枠（巾が900mm以上の建枠）			簡易枠（巾が900mm未満の建枠）	拡張枠（ブラケット枠）
建枠の高さmm	1800を超える	1800以下		1800以下	1800以下
製品例・型式	A-4064	A-4055A	A-3055A	A-6117S	A-9117
形状					
許容支持力 P	39.2kN(4.0ton)	42.6kN(4.35ton)	42.6kN(4.35ton)	34.3kN(3.5ton)	29.4kN(3.0ton)

- 建枠1枠あたりの脚柱鉛直荷重を示す。1脚あたりは、各々1／2となる。
- ジャッキベース繰り出し長さを200mm、両側筋違、幅いっぱいに布板を敷いた場合。
- 建枠の高さはジョイントは含まない。

2. 建枠の変則負荷

- 建枠の横架材に架ける荷重は、原則として踏み板（足場板）を経由する作業荷重以外の負荷を行わないこと。
やむを得ず横架材に荷重を架ける場合は、布板の許容荷重以内で使用するこ。

（注）仮設工業会説明

 - 労働大臣が定める規格による横架材の性能試験は、その許容耐力を設定するための強度確認がされていない。
 - 建枠の構造が多様で、横架材の許容耐力を一律に決めることができない。
 - 横架材にかかる荷重が小さい場合でも、支柱にかかる場合に比べて、たわみが大きい。これは、特に支保工として使用する場合、荷重のバランスが崩れて、危険を生じる可能性がある。

3. ジャッキの繰り出し長さによる許容支持力

ジャッキベースは、ジャッキの繰り出し長さによって建枠許容支持力が低下します。
通常、200mm以下で使用してください。

ジャッキの繰り出し長さによる許容支持力		
ジャッキの繰り出し長さ	建枠の許容支持力	ジャッキベースの許容支持力
200mm以下	42.6kN(4.35ton)	21.3kN(2.175ton)
200～250以下	40.6kN(4.15ton)	20.3kN(2.075ton)
250～300以下	38.7kN(3.955ton)	19.3kN(1.975ton)
300～350以下	37.2kN(3.80ton)	18.6kN(1.900ton)

※（高さ1800以下の標準枠の場合）

枠組足場の使用基準

4. 枠組足場の高さ・積載荷重

① 枠組足場の組立高さ

通常、枠組足場の高さは、標準枠、簡易枠共45mを限度とする。45m以上の高さとする場合は、荷重計算を行い、それぞれ許容強度以内で使用のこと。
（壁つなぎの間隔、積載荷重等に配慮する）

45m高さ（26層）の枠組足場の概算重量

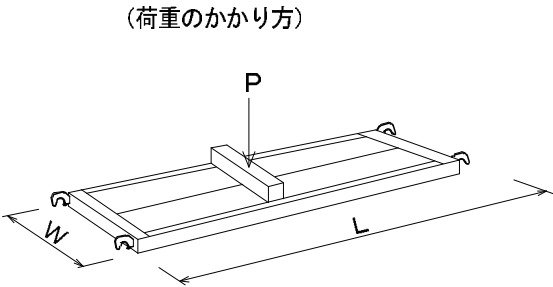
建枠の種類	部材重量(kg)	作業荷重(kg)	全重量(kg)	建枠の許容支持力(kg)
A-4055A	1,513	500kg×2層	2,513	<4,350
A-3055A	1,313	370kg×2層	2,053	<4,350
A-6117S	1,014	250kg×2層	1,514	<3,500

1層の部材重量

品名	型式		重量(kg)		
			A-4055A	A-3055A	A-6117S
建 枠		1枠	14.4	13.7	11.2
連結ピン 2本	A-20N	2本	1.2	1.2	1.2
筋違 2本	A-14	2本	8.6	8.6	8.6
床付布板(1)	HP-1829	1枚	16.0	16.0	16.0
床付布板(2)	HP-1829	1枚	16.0	—	—
	HP-1829-1/2		—	9.0	—
メッシュシート	その他		2.0	2.0	2.0
計			58.2	50.5	39.0

床付布枠の幅と積載荷重の例

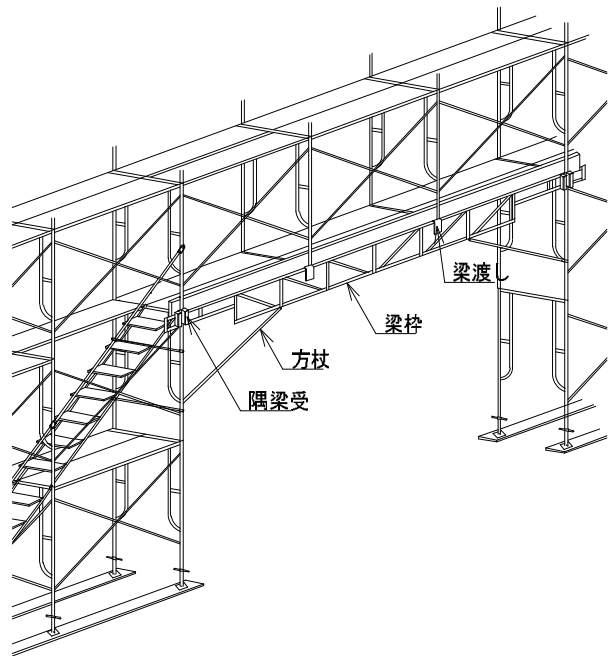
幅	型 式	許容荷重(kg)
500	HP-1829	250
400	HP-1829-400	200
240	HP-1829-1/2	120



* 中央集中荷重の許容荷重は、荷重が踏板の幅全体に架かることを前提としています。

桝組足場の使用基準

5. 開口部梁桝



(1) 梁桝等の組立方法

梁桝等を用いて桝組足場の構面の一部のスパン層について開口部を設け、さらに、その上層に桝組足場を組立場合は、労働安全衛生規則に定めることのほか、次のことにより行って下さい。

- ① 梁桝を用いる場合は、開口部の幅に応じた隔離位置にある両建桝に当該建桝専用の梁受け金物を介して2枚の梁桝を掛け渡して堅固に取付けること。(Uボルト、ナットを確実に締め付ける)
- ② 2枚の梁桝上において建桝を支持させるため、当該梁桝専用の梁渡しを取付け、同様に確実にネジを締めこむこと。
- ③ 梁渡しから上方に組立てる桝組足場の高さは、2.5m以下とする。ただし、梁桝支持部の建桝に補強等の措置を講ずるときは、この限りではないが、強度計算を行い安全性を確認すること。
- ④ 梁桝を用いた開口部の寸法は、幅4スパン以下、高さ3層以下とすること。
- ⑤ 梁桝を用いて開口部を構成する場合は、梁桝の種類に応じた表により開口部端の支持部から外方に桝組足場を設けること。ただし、3スパン及び4スパンにあつてはこれにより難しいときは梁桝支持部の建て桝に補強等の措置を講ずるときはこの限りではない。

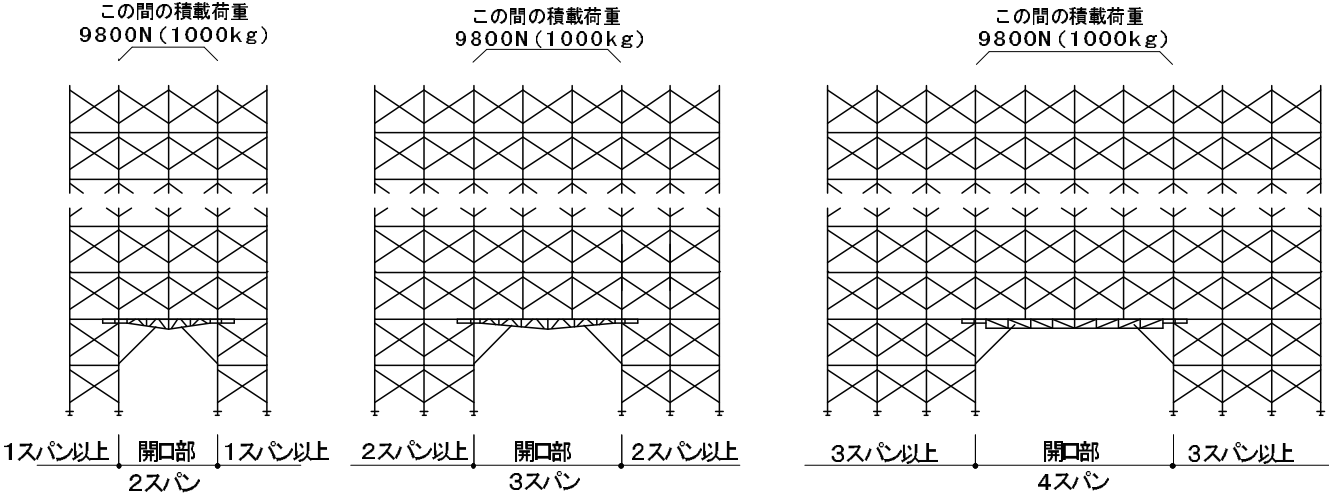
梁桝の種類	開口部端の支持部から外方へのスパン数
2スパン用	1スパン用
3スパン用	2スパン用
4スパン用	3スパン用

- ⑥ 前項⑤の開口部端より外方の桝組足場のスパン及び梁桝等で支持される開口部上方の桝組足場については、全スパン、全層にわたり交叉筋違を取付け、かつ、布板を建桝の幅いっぱいに設けること。又、当該筋違及び床付布桝は取り外さないこと。
- ⑦ 梁桝を取付けた両端支持部の建桝には、必ず壁つなぎ又は控えを設けること。
- ⑧ 梁桝と梁桝とで構成される水平構面には、必ず床付布桝を用いて水平構面を設けること。
- ⑨ 梁桝の直上層及び梁桝のレベル上の両端それぞれ3層以内は、桝組足場用手摺桝(先行型手摺桝)を使用せず、両面交叉筋違とすること。(右図参照)
ただし、専用部材を使用する方式の桝組足場に用いる手摺桝等の場合や交叉筋違を併用する場合を除く。

(2) 使用上の注意

- ① 梁桝で構成された開口部上方の足場の全積載荷重(足場の自重は除く)は、スパンに関係なく、9800N(1000kg)以下とする。
- ② 梁桝の見やすい箇所に積載荷重を表示すること。
- ③ 梁桝等で構成される桝組足場の各部に損傷、変形等が認められるものについては、その程度により、修理、部品交換、使用の中止等の必要な措置を講ずること。
- ④ 開口部端の梁桝支持部から外方に3スパン、2スパン及び1スパンの桝組足場部分については、簡易クレーン、建設用リフト等を設置しないこと。

梁桝等の組立て、使用上の注意の説明図(1)



桝組足場の使用基準

梁桝等の組立て、使用上の注意の説明図(2)

項目	桝組説明図 (図の積載荷重はkgで表示)	建桝の種類	足場の強度	
			作業荷重	梁桝を支持する最下層の建桝に架かる荷重P (図中Aの範囲)
			W1 梁桝上の積載荷重 W2 一般部の積載荷重	
開口部 2スパン		簡易桝	W1 9800N (1000KG) W2 4900N (250KG×2層同時)	①部材荷重 9050N (923kg) ②作業荷重 7350N (750kg) ①+②=16400N<34300N (1673kg) (3500kg) 簡易桝の許容強度以内 OK
		標準桝	W1 9800N (1000KG) W2 7250N (370KG×2層同時)	①部材荷重 12000N (1227kg) ②作業荷重 8530N (870kg) ①+②=20600N<42600N (2097kg) (4350kg) 標準桝の許容強度以内 OK
		標準桝	W1 9800N (1000KG) W2 9800N (500KG×2層同時)	①部材荷重 13600N (1390kg) ②作業荷重 9800N (1000kg) ①+②=23400N<42600N (2390kg) (4350kg) 標準桝の許容強度以内 OK
開口部 3スパン		簡易桝	W1 9800N (1000KG) W2 4900N (250KG×2層同時)	①部材荷重 12300N (1254kg) ②作業荷重 7350N (750kg) ①+②=19700N<34300N (2004kg) (3500kg) 簡易桝の許容強度以内 OK
		標準桝	W1 9800N (1000KG) W2 7250N (370KG×2層同時)	①部材荷重 16300N (1664kg) ②作業荷重 8530N (870kg) ①+②=24900N<42600N (2534kg) (4350kg) 標準桝の許容強度以内 OK
		標準桝	W1 9800N (1000KG) W2 9800N (500KG×2層同時)	①部材荷重 18500N (1882kg) ②作業荷重 9800N (1000kg) ①+②=28300N<42600N (2882kg) (4350kg) 標準桝の許容強度以内 OK
開口部 4スパン		簡易桝	W1 9800N (1000KG) W2 4900N (250KG×2層同時)	①部材荷重 15300N (1560kg) ②作業荷重 7350N (750kg) ①+②=22700N<34300N (2310kg) (3500kg) 簡易桝の許容強度以内 OK
		標準桝	W1 9800N (1000KG) W2 7250N (370KG×2層同時)	①部材荷重 20300N (2068kg) ②作業荷重 8530N (870kg) ①+②=28800N<42600N (2938kg) (4350kg) 標準桝の許容強度以内 OK
		標準桝	W1 9800N (1000KG) W2 9800N (500KG×2層同時)	①部材荷重 22900N (2339kg) ②作業荷重 9800N (1000kg) ①+②=32700N<42600N (3339kg) (4350kg) 標準桝の許容強度以内 OK

- ◆ 建桝の強度について、上表の荷重計算は桝組の種類構成(朝顔、階段の有無、養生桝の使用)等によって、数値が変わってきますので、実状に応じた計算を行って下さい。
- ◆ 梁桝自体の強度については、使用基準[積載荷重9800N(1000kg)以下]の範囲であれば、仮設工業会の認定合格品を使用すれば、安全性は確保されます。

足場材の積載重量

枠組セット	2Tユニック	4Tユニック	8Tユニック	10T平
建枠A-4055A	30 (470)	40 (630)	110 (1,720)	160 (2,500)
布板(HP-51×2)	30 (910)	40 (1,210)	110 (3,320)	160 (4,830)
筋違(A-14)	60 (260)	80 (350)	220 (950)	320 (1,380)
	(1,640)	(2,190)	(5,990)	(8,710)

枠組セット	2Tユニック	4Tユニック	8Tユニック	10T平
建枠A-3055A	30 (450)	50 (750)	120 (1,790)	180 (2,680)
布板(HP-51+21)	30 (730)	50 (1,210)	120 (2,900)	180 (4,340)
筋違(A-14)	60 (260)	100 (430)	240 (1,030)	360 (1,550)
	(1,440)	(2,390)	(5,720)	(8,570)

枠組セット	2Tユニック	4Tユニック	8Tユニック	10T平
建枠A-6117S	40 (500)	70 (870)	160 (2,000)	240 (3,000)
布板(HP-51)	40 (610)	70 (1,060)	160 (2,420)	240 (3,600)
筋違(A-14)	80 (350)	140 (600)	320 (1,380)	480 (2,100)
	(1,460)	(2,530)	(5,800)	(8,700)

※ 参 考

車 種	2Tユニック	4Tユニック	8Tユニック	10T平
積載重量	2T	2.5T	6T	9T

機材センター 御利用にあたってのお願い

ご来場からご退場まで安全・円滑に行って頂く為に、下記内容についてご協力、お願い申し上げます

営業時間

- ・ 受 付：8:00～16:00(12:00～13:00は昼休憩) ※受付時間を過ぎますと、入出庫ができませんのでご注意ください
- ・ 休業日：日曜 祝日 GW 夏季休業 年末年始 その他弊社指定日

御注文に関して

- ・ レンタル資材の注文は前日の営業時間内に機材センターまでお願いします

車両に関して

- ・ 積み下ろしはフォークリフトで行います(積込み・ご返却同様) ※資材は番線で結束願います
- ・ 側アオリ板が可倒し、荷台が平面の車輛でお越し下さい
- ・ 必ず角バタ(リング)・荷帯等をご用意下さい

積込みにに関して

- ・ 運転手さんは必ず、ご注文会社様名(代理店様の場合は代理店名・出荷先)、現場名(工事名)、ご注文内容(資材名・サイズ・数量)を確認の上、ご来場願います
- ・ 過積載となる積込みは致しません
必ず、ご注文資材の積載要領・重量に応じた車輛でのご来場をお願い致します
- ・ 資材(特にアルミ製品)によっては荷帯・荷締ベルトの締め具合で変形し、破損または使用できなくなる場合がありますのでご注意願います

御返却に関して

- ・ 資材の種類別・サイズ別に結束の員数可能な状態でご返却下さい(右図参照)
- ・ ご返却資材のご注文会社様名(代理店様の場合は代理店名・出荷先)、現場名(工事名)、ご注文内容(資材名・サイズ・数量)を記載した送り状をご持参願います
- ・ 種類別・サイズ別に数量がチェックできる状態で番線などで結束して返却下さい
- ・ 鳥居型枠は同じサイズの物を交互に25段50枚で結束して下さい
- ・ 調節枠は同じサイズの物を交互に25枚以内で結束して下さい
- ・ 布付布枠は25枚2列以下で結束して下さい 3列以上は止めて下さい
- ・ 筋違などは100本以内で結束して下さい 大くくりは止めて下さい
- ・ 丸パイプ(単管)はサイズ別に50本で結束して下さい
長物と短物(2m以下)は必ず別結束にして下さい